

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
島根リハビリテーション学院	平成10年3月9日	谷河 精規	〒699-1511 島根県仁多郡奥出雲町三成1625番地1 (電話) 0854 (54) 0001			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人 仁多学園	平成10年3月9日	勝田 康則	〒699-1511 島根県仁多郡奥出雲町三成1625番地1 (電話) 0854 (54) 0001			
目的	「教育基本法」の精神、「学校教育法」及び「理学療法士及び作業療法士法」の趣旨に則り、生命の尊厳を柱として、豊かな教養と高い倫理観を備え、療法士として広く社会の要請に応じうる人材を養成することを目的としている。					
分野	課程名	学 科 名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
医療	医療専門課程	理学療法学科	4年(昼) <small>Ⓐ 新カリキュラム Ⓑ 旧カリキュラム</small>	Ⓐ 3655単位時間 (111単位) Ⓑ 3570単位時間 (110単位)	—	平成17年文部科学省告示170号
教育課程 <small>Ⓐ 新カリキュラム Ⓑ 旧カリキュラム</small>	講義		演習	実験	実習	実技
	Ⓐ 2270単位時間 (77単位)		Ⓑ 90単位時間 (3単位)	単位時間 (　　単位)	Ⓐ 1250単位時間 (30単位)	Ⓑ 45単位時間 (1単位)
	Ⓑ 2355単位時間 (83単位)		単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	Ⓐ 1170単位時間 (26単位)	Ⓑ 45単位時間 (1単位)
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120人	95人	6人	71人	77人		
学期制度	■前期：4月1日～9月14日 ■後期：9月15日～3月31日			成績評価	■成績表(有・無) ■成績評価の基準・方法について 期末試験点、出席率、レポート点等によって評価。100～80点：A、79～70点：B、69～60点：Cを合格とし、単位を認定する。59点以下：Dを不合格とし、単位を与えない。 臨床実習の評価は、実習施設における評価(80%)と本学院における評価(20% (学内実習・ゼミナール・レポート等))を総合して最終判定を行う。実習施設での評価は、実習評価表(本学院作成)の各項目に基づき、A:80点、B:60点、C:50点で評価する。	
長期休み	■学年始め：4月1日 ■夏 季：8月1日～8月31日 ■冬 季：12月24日～1月7日 ■学 年 末：3月31日			卒業・進級条件	各学年に開講される科目のうち、履修すべき全ての科目の単位を修得した者は次年次に進級あるいは卒業することができる。	

生徒指導	<p>■クラス担任制 (有) 無)</p> <p>■長期欠席者への指導等の対応</p> <p>主に担任が連絡を取り相談に乗ると共に学科内で問題を共有し解決策を協議している。また、学生相談室への訪室を促している。</p>	課外活動	<p>■課外活動の種類</p> <p>野球、フットサル、バスケットボール、バレー、ボランティア、吹奏楽サークル</p> <p>■サークル活動 (有)・無)</p>
就職等の状況	<p>■主な就職先、業界</p> <p>安来第一病院、出雲市民病院、 出雲市民リハビリテーション病院、 雲南市立病院、玉造病院、 町立奥出雲病院、他、多数。</p> <p>■就職率 100%</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合100%</p> <p>(平成28年度卒業者に関する平成29年3月時点の情報)</p>	主な資格・検定	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士国家試験の受験資格 ・赤十字救急法救急員 ・初級障がい者スポーツ指導員 (公益財団法人 日本障がい者スポーツ協会認定) (希望者のみ) ・福祉住環境コーディネーター(希望者のみ)
中途退学の現状	<p>■中途退学者 4名 ■中退率 4.2%</p> <p>平成28年4月 1日在学者95名 (平成28年4月入学者を含む) 平成29年3月31日在学者91名 (平成29年3月卒業生を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の目標が見つかった。 ・療法士になることの動機が不十分だった。 ・学業に対する意欲低下と学業不振。 <p>■中退防止のための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績不振の学生に対しては個別に補習を行っている。 ・個別面談を通して問題の早期発見と助言、指導を行っている。 ・学生相談室を設置し臨床心理士による学生相談日を設けている。 		
ホームページ	<p>URL:http://www.shima-reha.com</p>		

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

教育課程編成委員会（以下、委員会）は、卒業生の就職先または実習先である病院・福祉施設で、現在活躍しておられる6名の療法士、及び、島根リハビリテーション学院（以下、本学院）から学院長、教務部長、副教務部長が参加、合計9名で構成され（オブザーバーとして理学・作業療法学科長、各学科主任4名が出席している）、人材の専門性に関する昨今の地域社会の方向性及び動向、新たに必要となっている知識、技術や技能などを聴取し、本学院で、専門的医療教育を実施して行く上で、現在の本学院のカリキュラムに新たに加えるべき事項、改変・削除すべき点を指摘願い、必要な授業科目・授業内容や方法の改善を行うことを基本方針としている。

また、学生の実習をご指導願っている多くの病院や福祉施設へ、教員が実習地訪問を兼ねて出向き、医療の発展に伴い実務で新たに必要となる知識、技術や技能等のご意見を聴取し、本委員会において検討頂き、授業や学内実習の内容改善に努めることも加えて本学院の基本的な考え方である。

（教育課程編成委員会等の全委員の名簿）

平成29年3月27日現在

名 前	所 属
谷河 精規	島根リハビリテーション学院
平岡 千昭	島根リハビリテーション学院
鈴木 哲	島根リハビリテーション学院
小早川 真由美	町立奥出雲病院
妹尾 篤	町立奥出雲病院
嘉田 将典	飯南町保健福祉センター
佐野 直也	奥出雲コスモ病院
江草 典政	島根大学医学部附属病院
森脇 繁登	島根大学医学部附属病院

（開催日時）

第1回 平成28年8月6日 16:00～17:40

第2回 平成29年3月27日 16:00～17:40

2. 主な実習・演習等

（実習・演習等における医療施設（企業）等との連携に関する基本方針）

将来、理学療法士として、病院・施設等で、医療知識や技術を十分に発揮できることはもちろんのこと、健康増進・介護予防・スポーツ傷害予防等、社会のニーズに対応できる能力を身につけることも必須である。これらを達成するためには、医療を取り巻く、産・官・学の連携により、専門職としてのさらなるキャリアアップが必要である。社会が理学療法士に求めている事柄を絶えず分析し、これから社会により即した実践的かつ専門的な職業人の育成を基本方針としている。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
協働力実習	稻作の協働作業を通じてリハビリテーションの基本のチームアプローチの基礎能力を育成する。	J A雲南
理学療法概論Ⅰ	本科目の中で、臨床施設での見学実習(1日)を実施し、早期からの職業への理解、ロールモデルの発見、モチベーションの引き上げを図る。	島根大学医学部附属病院・出雲市民病院・安来第一病院・出雲総合医療センターなど
治療学Ⅲ	基本的小児科疾患の評価、リスク管理について学習させ、模擬患者に対して理学療法プログラムを立案する能力を育成する。 近隣の保育施設へ赴き、幼児期の発達段階を実際に見学し、理解を深めさせる。	奥出雲福祉会立三成幼稚園
生活環境論	障害者が在宅生活を送るために必要な環境整備、利用可能な社会資源について理解させる。地域の課題を発	奥出雲町地域包括支援セ

	見する、「地域診断」を、奥出雲町内で実際にを行い、課題発見能力を育成する。	ンター 奥出雲町役場
臨床運動学	代表的なスポーツ外傷の予防方法、その後のリハビリテーションについての知識を学び、それらを基に実際に高校の運動部に対して、障害予防を目的とした運動指導プログラム立案し、指導する演習を行う。	島根県立松江工業高等学校・島根県立横田高等学校
公衆衛生学	公衆衛生の観点から、在宅高齢者の日常生活実態と心理への理解を深めるために、町内の高齢者宅訪問を行い、その結果をグループで考察させる。	奥出雲社会福祉協議会
臨床実習Ⅰ	臨床実習指導者の助言のもとに、基本的な理学療法評価技術を育成する。また、理学療法士の業務全般を見学して、役割を理解し、理学療法の概念・基礎医学の重要性を理解させる。	臨床実習受け入れ施設 計 24 施設
臨床実習Ⅱ	主に医療施設において、8週間×2回実施する。基本的理学療法の流れを理解し、指導者の助言のもと、基本的理学療法を実施する能力を育成する。	臨床実習受け入れ病院 計 23 施設
臨床実習Ⅲ	主に医療外施設において、4週間実施する。臨床実習指導者の助言のもと、理学療法プログラム立案・実施・効果判定・プログラムの変更までの臨床の流れを体験させる。また、対象者を取り巻く環境・社会的背景等を理解させる。また、社会人基礎力、医療倫理観を育成する。	臨床実習受け入れ病院 計 26 施設

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

理学療法学科教員は、厚生労働省と（公財）医療研修推進財団との共催で行われる、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設等教員講習会（4週間）を受講するようになっているほか、毎年開催される全国リハビリテーション学校協会主催の教育研究大会及び同時に開催されるワークショップへ1名以上参加させ、教育の質向上に取り組むとともに、各教員が自らの専門性に合わせ、学会や研修会に参加し、帰校後、学内においてFD委員会主催で講習会を開催し、教員間で知識・技術・技能等の共有化を図っている。研修会参加費、旅費、宿泊費等は本学院負担となっており、教員が参加しやすい環境を整備している。また、各年度末に行われる臨床実習指導者会議において、臨床実習指導者と本学院教員共同で臨床実習のあり方、学生への対応の仕方等の検討を行っている。

医療分野の発展は日進月歩であり、出来るだけ新しい知識や技術を伝授するためには情報収集と共に研究開発が必要と考え、本学院の教員と、病院や施設に勤務する卒業生を交えた学会発表や論文発表等を推奨・支援している。これらの支援方針は本学院の継続した基本方針である。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成29年2月16日現在

名 前	所 属
松浦 士登	奥出雲町役場
鈴木 賢二	町立奥出雲病院
佐藤 修二	仁多福祉会
安部 隆	奥出雲町教育委員会
田中 茂樹	保護者会
石川 瞳雄	奥出雲介護老人保健施設
勝部 和久	出雲市民病院

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: URL:<http://www.shima-reha.com>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: URL:<http://www.shima-reha.com>

授業科目等の概要

(医療専門課程理学療法学科) 平成28年度 (新カリキュラム)									
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習
○			心理学	心理学的認識を通して、自己及び他者の理解を目的とする。	1 前	30	1	○	
○			倫理学	倫理に関する基本的な知識を得るとともに、自分の考えを、根拠を示しつつ適切に表明するために必要な技術を育成する。	1 後	30	1	○	
○			文学	日本の文学作品を通して、われわれの生きる世界を知ると同時に、言葉の編み出す架空の世界の豊かさを知ることを目的とする。	1 前	30	1	○	
○			教育学	教育について、その原理・歴史の基礎を学ばせ、人権教育とリハビリテーションの関連について考察させる。	1 前	30	1	○	
○			社会学	家族に関する考察を通して社会学の基礎知識を習得し、そこから社会を解釈する能力を育成する。	1 後	30	1	○	
○			物理学	高校教育レベルの物理学の復習をさせ、リハビリテーションに必要な力学を中心に理解させる。	1 前	30	1	○	

○	医生物化学	解剖学・生理学・運動学を統合させることを目的とした科目である。特にリハビリテーション医学に関与する部分に焦点を当て、知識を定着させる。	1 前	60	2	○		
○	情報処理	各アプリケーションを利用してデータの貼り付け、リンクの設定。Excel の関数を用いて、用途別のワークシートを作成する能力を育成する。	2 前	15	1	○		
○	協働力実習	農作業(米作り)を通して、自然や人との交流をすることの大切さや喜びを経験し、自然や人に対して共感する能力を育成する。	1 通	30	1	△		○
○	英語-Reader-	一般教養および専門的領域において必要な英語の文章を一人で読み進める力を育成する	1 前	30	1	○		
○	英語-Speech-	英語をコミュニケーションの道具として使う楽しさを体験させる。	2 後	30	1	○		
○	保健体育講義	生涯にわたって、心身ともに健康で豊かな生活を営むために必要な健康の成立条件を知り、健康で安全な生活をする能力を育成する。	1 前	15	1	○		
○	保健体育実技	自己のライフスタイルの変化に応じたスポーツとのかかわりを通じて、健康の保持、増進に関与できる知識を習得し、実践できる能力を育成する。	1 前	45	1			○
○	解剖学講義	正常な生体の構造について学習させ、セラピストとして必要となる各疾患の病態を理解するための基礎とする。	1 通	90	3	○		
○	解剖学実習	組織標本を観察することによって各組織・器官の微細な構造を理解させる。人体解剖学の実習体を見学することで、講義で学んだ人体の形態と構造に関する知識をさらに深めさせる。	1 通・ 2 前	60	2			○
○	生理学講義	正常な生体の諸機能について学習させ、セラピストとして必要となる各疾患の病態を理解するための基礎とする。	1 通	75	3	○		

○		生理学実習	生理学の講義で学習した生体の諸機能について実習し、これらが真実であることを認識すると共に、生理学的な生体機能の考察を通じて生理学の知識を深めさせる。	2 前	45	1	○	
○		運動学講義	人体の構造と機能を踏まえて、運動力学的要素の基礎を理解させる。	1 前	60	2	○	
○		運動学実習	運動学講義で得た知識を応用させ、運動学的視点から正常な動作を観察・分析する能力を育成する。	1 後	45	1	○	
○		人間発達学	人間を理解する基礎として、乳幼児期から老人に至るまでの各段階における身体機能、運動機能、精神機能について、発達的な理解させる	2 前	30	1	○	
○		病理学概論	疾病の病理発生と予知・予防分子遺伝学および治療法についての基本的概念と、最近の臨床および基礎医学研究の基本的を理解させる。	1 後	30	1	○	
○		臨床心理学	臨床心理学の基礎を学ぶことで、対人援助職に必要な人間理解を深めることを目的とする。また、グループワークを通して、自己および他者への理解を体験的に深めさせる。	2 前	30	1	○	
○		内科学	基礎医学の知識を基に、内科学の病態生理、症候、診断と治療や予後に関する基本的な知識の充実と応用力を育成する。	2 通	60	2	○	
○		整形外科学	基礎医学の知識を基に、整形外科学の病態生理、症候、診断と治療や予後に関する基本的な知識の充実と応用力を育成する。	2 通	60	2	○	

○	神経内科学	基礎医学の知識を基に、神経内科学の病態生理、症候、診断と治療や予後に関する基本的な知識の充実と応用力を育成する。	2 通	60	2	○		
○	精神医学 I (総論)	精神医学のアウトライント考え方(総論において)各疾患の中核概念とその周辺(各論において)をクリアに理解させる。	2 前	30	1	○		
○	小児科学	基礎医学の知識を基に、小児科学の病態生理、症候、診断と治療や予後に関する基本的な知識の充実と応用力を育成する。	2 後	30	1	○		
○	リハビリテーション医学	リハビリテーションが治療的手段として重要である運動器疾患、脳血管障害、神経筋疾患、内部障害、小児疾患、精神疾患について学習する。リハビリテーションの阻害因子や予後を左右する要因を検討するための検査法について学ぶとともに、障害の評価、治療、およびセラピストとしての患者さんへの接し方を理解させる。	3 前	30	1	○		
○	リハビリテーション概論	リハビリテーションの思想・理念とその実践エリアを理解し、それに関わる人的・物的・社会資源の実際や法制度を知ることを目的とする。特に障がい者の心理や社会的な立場の理解には十分な時間を割き、理学療法、作業療法の実践者に相応しい心構えを理解させる。	1 前	30	1	○		
○	社会福祉論	社会福祉と医療、社会保障の関連性について理解させる。人がより良い生活を実現するための社会福祉制度・社会保障について学ぶ。社会資源の活用の仕方を理解させる。	3 前	30	1	○		
○	公衆衛生学	高齢者のリハビリテーションを実施するに当たり必要と思われる公衆衛生学の知識を習得する。高齢者とコミュニケーションを取るための技術と態度を育成する。	3 前	30	1	○		△
○	理学療法概論 I	理学療法士法・医療保険・介護保険法を理解させる。また、臨地見学実習(1日)を実施し、早期からの職業への理解、ロールモデルの発見、モチベーションの引き上げを図る。	1 通	30	1	○		△
○	理学療法概論 II	職業倫理及び医療倫理について理解を深めると共に、理学療法士が社会において担う役割(予防医学・地域包括ケアシステム)について理解させる。	2 後	30	1	○		

○		研究方法論 I (妙 読)	理学療法研究の基礎（目的・意義・領域・ 方法）を理解させる。 文献抄読・基本的な統計処理の能力を育 成する。	1 後	15	1	○	△	
○		研究方法論 II (方 法)	簡易な理学療法研究の研究計画書を作成 できる能力を育成する。	2 後	30	1	△	○	
○		研究方法論 III (卒 論)	研究計画を実施し、卒業論文作成に取り 掛かる。研究の過程で問題解決能力や論 理性、表現能力を育成する。	3 前 ・ 4 前	50	2	△	△	○
○		臨床運動学	代表的なスポーツ外傷の予防方法、その 後のリハビリテーションについての知識 を学び、それらを基に実際に高校の運動 部に対して、障害予防を目的とした運動 指導プログラム立案し、指導する演習を行 う。	3 前	30	1	○		
○		検査測定法 I	理学療法評価の目的・方法について理解 し、形態測定・関節可動域測定、腱反射 を模擬患者に対して実施する技術を育成 する。	1 後	30	1	○	△	
○		検査測定法 II	理学療法評価の目的・方法について理解 し、各種評価を模擬患者に対して実施す る技術を育成する。	2 前	45	2	○	△	
○		運動療法 I (基礎)	基礎医学知識(解剖学・運動学・生理学) を応用して、関節可動域制限、筋力低下、 全身持久力低下に対して運動を処方する 能力を育成する。	1 後	60	2	○	△	
○		運動療法 II (応用)	基礎医学知識(解剖学・運動学・生理学)、 基本的疾患に関する知識を応用して、 健常者に対して運動學習理論を用いてト レーニングを実施する能力を育成する。 また、バランス能力の低下、老年期症候 群に対する運動療法プログラムを立案す る能力を育成する。	2 通	60	2	○	△	
○		物理療法 I (温熱)	温熱療法について、機器等の物理的特性、 生体に及ぼす生理学的作用、効果と適応、 手技、リスク管理を行う能力を育成する。	2 前	45	2	○	△	

○		物理療法Ⅱ(電気)	電気・水治療法について、機器等の物理的特性、生体に及ぼす生理学的作用、効果と適応、手技、リスク管理を行う能力を育成する。	2 後	45	2	○	△	△
○		義肢学	義肢の分類と名称、適合判定、断端管理、義肢の製作、装着使用訓練、支給サービスに関して理解させる。	2 後	30	1	○	△	
○		装具学	装具の分類と名称、採寸・採型、適合判定、装着使用訓練、支給サービスに関して理解させる。	3 前	30	1	○	△	
○		日常生活活動Ⅰ (基礎)	基本的日常生活動作、応用的日常生活動作の構成を理解させる。 日常生活動作の量的評価項目を理解させる。 起居移動動作における基本的介護技術を育成する。	1 後	30	1	○	△	△
○		日常生活活動Ⅱ (応用)	日常生活動作の量的・質的評価項目を理解させ、模擬患者に対して実施する能力を育成する。 近隣の介護施設へ赴き、実際に現場で行われている生活介護に参加・見学する実習を行い、生活支援の重要性と方法を実践の中から育成する。	2 前	30	1	○	△	
○		整形外科系治療学	基本的整形外科疾患の評価、リスク管理について学習させ、模擬患者に対して理学療法プログラムを立案する能力を育成する。	3 通	120	4	○	△	
○		神経内科系治療学	基本的神経内科疾患の評価、リスク管理について学習させ、模擬患者に対して理学療法プログラムを立案する能力を育成する。	3 通	105	3	○	△	
○		理学療法治療学Ⅲ (小児)	基本的小児科疾患の評価、リスク管理について学習させ、模擬患者に対して理学療法プログラムを立案する能力を育成する。 近隣の保育施設へ赴き、幼児期の発達段階を実際に見学し、理解を深めさせる。	3 前	30	1	○		△
○		内科系治療学	呼吸、代謝、循環器・がん疾患の評価、リスク管理について学習させ、模擬患者に対して理学療法プログラムを立案する能力を育成する。	2 後	75	2	○	△	

○	スポーツ理学系治療学	代表的なスポーツ外傷の予防方法、その後のリハビリテーションについての知識を学び、それらを基に実際に高校の運動部に対して、障害予防を目的とした運動指導プログラム立案し、指導する演習を行う。	3後	30	1	○	△	△
○	理学療法治療計画法	本授業では、各種疾患に対する測定・評価とそれに基づく理学療法計画について模範学習を行う。指導教員の助言のもと、臨床ではどのように捉え、実践しているのかを学び、問題解決思考能力を育成する。	3後	30	1	△	○	
○	生活環境論	障害者が在宅生活を送るために必要な環境整備、利用可能な社会資源について理解させる。地域の課題を発見する、「地域診断」を、奥出雲町内で実際にを行い、課題発見能力を育成する。	3前	30	1	○	△	
○	地域理学療法論	地域の医療福祉分野における課題に対して、理学療法士の役割、社会資源、多職種との連携について理解させる。	3後	30	1	○	△	
○	臨床実習Ⅰ	臨床実習指導者の助言のもとに、基本的な理学療法評価技術を育成する。また、理学療法士の業務全般を見学して、役割を理解し、理学療法の概念・基礎医学の重要性を理解させる。	3後	90	2			○
○	臨床実習Ⅱ	主に医療施設において、8週間×2回実施する。基本的理学療法の流れを理解し、指導者の助言のもと、基本的理学療法を実施する能力を育成する。	4前	720	16			○
○	運動療法手技論	理学療法分野にとどまらず、医療福祉分野の先進的な取り組みを学ぶ特別授業である。学院内外から講師を招いて、視野を広げる総合的学習の機会とする。	3後	20	1	○	△	
○	臨床実習Ⅲ（医療外）	主に医療外施設において、4週間実施する。対象者を取り巻く環境・社会的背景等を理解させる。また、社会人基礎力、医療倫理観を育成する。	4後	180	4			○

○		総合演習Ⅰ	専門基礎医学科目の国家試験対策を目的とした科目で、早期から知識の定着を図る。授業を通して学習方略を理解させ、自主学習能力を育成する。	1 通	30	1	○	△	
○		総合演習Ⅱ	疾患学の国家試験対策を目的とした科目で、早期から知識の定着を図る。低学力者に対する個別指導を徹底し、底上げを図る。	2 通	60	2	○		
○		総合演習Ⅲ	国家試験共通・専門分野に対する国家試験対策を目的とする。低学力者に対する個別指導を徹底し、底上げを図る。	3 通	120	4	○		
○		総合演習Ⅳ	国家試験対策科目である。卒業試験及び国家試験合格基準に達するための知識を得ることを目的とする。 専任教員は国家試験対策講義を実施し、学習到達度を明示する。 月2回の模擬試験を実施し、習熟度をデータ化する。これを基に教員は学生指導を行い、学生は学習スケジュールを立て効率的な学習を進める。	4 通	60	2	○		
○		キャリアアップ科目（地域医療・健康増進Ⅰ、起業・マネジメントⅠ、アニマル・芸術療法Ⅰ、レクリエーションⅠ）	本科目は、2年次・3年次の2年間に跨り4つの領域から1分野を選択して履修する科目である。地域や企業と連携し、理学療法の視点から、医療福祉に関する課題を発見・解決する能力を育成する。	2 通	30	1	△	○	△
○		キャリアアップ科目（地域医療・健康増進Ⅱ、起業・マネジメントⅡ、アニマル・芸術療法Ⅱ、レクリエーションⅡ）	キャリアアップ科目Ⅰで学んだ知識や経験を生かしてPDCAサイクルを回し、課題解決能力を育成する。	3 通	30	1	△	△	○
合計			65科目	3655単位時間（111単位）					

授業科目等の概要

(医療専門課程理学療法学科) 平成28年度(旧カリキュラム)								
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	授業方法	
必修	選択必修	自由選択					講義	演習
○			心理学	心理学的認識を通して、自己及び他者の理解を目的とする。	1 前	30	1	○
○			倫理学	倫理に関する基本的な知識を得るとともに、自分の考えを、根拠を示しつつ適切に表明するため必要な技術を育成する。	1 後	30	1	○
○			文学	日本の文学作品を通して、われわれの生きる世界を知ると同時に、言葉の編み出す架空の世界の豊かさを知ることを目的とする。	1 前	30	1	○
○			教育学	教育について、その原理・歴史の基礎を学ばせ、人権教育とリハビリテーションの関連について考察させる。	1 前	30	1	○
○			社会学	家族に関する考察を通して社会学の基礎知識を習得し、そこから社会を解釈する能力を育成する。	1 後	30	1	○
○			物理学	人間を取り巻く地球の環境は日に日に悪化している。内分泌搅乱物質(環境ホルモン)の日常的使用と拡散、地球の温暖化、武器製造や原子炉事故による放射能汚染の増加と拡大。これらに物理学は深く関与してきた。この講義の目的は、これらに関する正確な知識を習得すること。そして、対処方法を冷静に考察できることである。	1 前	30	1	○

○		生物学	解剖学・生理学・運動学を統合させることを目的とした科目である。特にリハビリテーション医学に関与する部分に焦点を当て、知識を定着させる。	1 前	45	2	○		
○		統計学	根拠に基づいた医療(EBM)における統計の重要性を理解させる。統計知識を学び、論文や情報雑誌を正しく理解させる。エクセルを用いて統計処理を行う能力、エクセルを用いて図や表を作成する能力、統計結果を正しく解釈し、文章で説明する能力を育成する。	3 前	30	1	○		
○		情報処理	各アプリケーションを利用してデータの貼り付け、リンクの設定。Excelの関数を用いて、用途別のワークシートを作成する能力を育成する。	2 前	30	1	○		
○		協働力実習	農作業(米作り)を通して、自然や人との交流をすることの大切さや喜びを経験し、自然や人に対して共感する能力を育成する。	1 通	30	1	△		○
○		英語 -Reader-	一般教養および専門的領域において必要な英語の文章を一人で読み進める力を育成する	1 前	30	1	○		
○		英語 -Speech-	英語をコミュニケーションの道具として使う楽しさを体験させる。	2 後	30	1	○		
○		保健体育講義	生涯にわたって、心身ともに健康で豊かな生活を営むために必要な健康の成立条件を知り、健康で安全な生活をする能力を育成する。	1 前	15	1	○		
○		保健体育実技	自己のライフスタイルの変化に応じたスポーツとのかかわりを通じて、健康の保持、増進に関与できる知識を習得し、実践できる能力を育成する。	1 前	45	1			○
○		解剖学講義	正常な生体の構造について学習させ、セラピストとして必要となる各疾患の病態を理解するための基礎とする。	1 通	90	3	○		
○		解剖学実習	組織標本を観察することによって各組織・器官の微細な構造を理解させる。 人体解剖学の実習体を見学することで、講義で学んだ人体の形態と構造に関する知識をさらに深めさせる。	1 通 ・ 2 前	60	2			○

○		生理学講義	正常な生体の諸機能について学習させ、セラピストとして必要となる各疾患の病態を理解するための基礎とする。	1 通	75	3	○		
○		生理学実習	生理学の講義で学習した生体の諸機能について実習し、これらが真実であることを認識すると共に、生理学的な生体機能の考察を通じて生理学の知識を深めさせる。	2 前	45	1			○
○		運動学講義	人体の構造と機能を踏まえて、運動力学的因素の基礎を理解させる。	1 前	60	2	○		
○		運動学実習	運動学講義で得た知識を応用させ、運動学的視点から正常な動作を観察・分析する能力を育成する。	1 後	45	1			○
○		人間発達学	人間を理解する基礎として、乳幼児期から老人に至るまでの各段階における身体機能、運動機能、精神機能について、発達的な理解させる	2 前	30	1	○		
○		病理学概論	医学倫理と死生学を論じ、「人間医学」についてその思考の多様性の「重み」を再考させる。疾病的病理発生と予知・予防分子遺伝学および治療法についての基本的概念と、最近の臨床および基礎医学研究の基本的を理解させる。	1 後	30	1	○		
○		臨床心理学	臨床心理学の基礎を学ぶことで、対人援助職に必要な人間理解を深めることを目的とする。また、グループワークを通して、自己および他者への理解を体験的に深めさせる。	2 前	30	1	○		
○		内科学	基礎医学の知識を基に、内科学の病態生理、症候、診断と治療や予後に関する基本的な知識の充実と応用力を育成する。	2 通	60	2	○		

○		整形外科学	基礎医学の知識を基に、整形外科学の病態生理、症候、診断と治療や予後に関する基本的な知識の充実と応用力を育成する。	2 通	60	2	○		
○		神経内科学	基礎医学の知識を基に、神経内科学の病態生理、症候、診断と治療や予後に関する基本的な知識の充実と応用力を育成する。	2 通	60	2	○		
○		精神医学 I (総論)	精神医学のアウトラインと考え方(総論において)各疾患の中核概念とその周辺(各論において)をクリアに理解させる。	2 前	45	2	○		
○		小児科学	基礎医学の知識を基に、小児科学の病態生理、症候、診断と治療や予後に関する基本的な知識の充実と応用力を育成する。	2 後	30	1	○		
○		一般臨床医学	臨床医学全般を概観し、他の科目で取り上げられない必要な基礎知識について教授する。併せて診断概要、治療概要についても教授する。	2 後	30	1	○		
○		リハビリテーション医学	リハビリテーションが治療的手段として重要な運動器疾患、脳血管障害、神経筋疾患、内部障害、小児疾患、精神疾患について学習する。リハビリテーションの阻害因子や予後を左右する要因を検討するための検査法について学ぶとともに、障害の評価、治療、およびセラピストとしての患者さんへの接し方を理解させる。	3 前	30	1	○		
○		リハビリテーション概論	リハビリテーションの思想・理念とその実践エリアを理解し、それに関わる人的・物的・社会資源の実際や法制度を知ることを目的とする。特に障がい者の心理や社会的な立場の理解には十分な時間を割き、理学療法、作業療法の実践者に相応しい心構えを理解させる。	1 前	30	1	○		
○		社会福祉論	社会福祉と医療、社会保障の関連性について理解させる。人がより良い生活を実現するための社会福祉制度・社会保障について学ぶ。社会資源の活用の仕方を理解させる。	3 前	30	1	○		
○		公衆衛生学	高齢者のリハビリテーションを実施するに当たり必要と思われる公衆衛生学の知識を習得する。高齢者とコミュニケーションを取るための技術と態度を育成する。	3 前	30	1	○		△

○		理学療法概論 I	理学療法士法・医療保険・介護保険法を理解させる。また、臨地見学実習(1日)を実施し、早期からの職業への理解、ロールモデルの発見、モチベーションの引き上げを図る。	1 通	60	2	○		△
○		理学療法概論 II	職業倫理及び医療倫理について理解を深めると共に、理学療法士が社会において担う役割(予防医学・地域包括ケアシステム)について理解させる。	3 後	30	1	○		
○		研究方法論 I (妙読)	理学療法研究の基礎(目的・意義・領域・方法)を理解させる。 文献抄読・基本的な統計処理の能力を育成する。	1 後	30	1	○		
○		研究方法論 II (方法)	簡易な理学療法研究の研究計画書を作成できる能力を育成する。	2 前	30	1	○		
○		研究方法論 III (卒論)	研究計画を実施し、卒業論文作成に取り掛かる。研究の過程で問題解決能力や論理性、表現能力を育成する。	3 通・ 4 後	75	3	○		
○		臨床運動学	代表的なスポーツ外傷の予防方法、その後のリハビリテーションについての知識を学び、それらを基に実際に高校の運動部に対して、障害予防を目的とした運動指導プログラム立案し、指導する演習を行う。	3 前	30	1	○		
○		評価測定法 I (総論)	理学療法評価の目的・方法について理解し、形態測定・関節可動域測定、腱反射を模擬患者に対して実施する技術を育成する。	1 後	30	1	○		
○		評価測定法 II (基礎)	理学療法評価の目的・方法について理解し、各種評価を模擬患者に対して実施する技術を育成する。	2 前	60	2	○		
○		評価測定法 III (応用)	基本的疾患に対する基本的な評価の目的・方法を理解させ、模擬患者に対して実施できる知識と技術を育成する。	2 後	60	2	○		
○		運動療法 I (基礎)	基礎医学知識(解剖学・運動学・生理学)を応用して、関節可動域制限、筋力低下、全身持久力低下に対して運動を処方する能力を育成する。	1 後	60	2	○		

○		運動療法Ⅱ (応用)	基礎医学知識(解剖学・運動学・生理学)、基本的疾患に関する知識を応用して、健常者に対して運動学習理論を用いてトレーニングを実施する能力を育成する。また、バランス能力の低下、老年期症候群に対する運動療法プログラムを立案する能力を育成する。	2 通	60	2	○		
○		物理療法Ⅰ (温熱)	温熱療法について、機器等の物理的特性、生体に及ぼす生理学的作用、効果と適応、手技、リスク管理を行う能力を育成する。	2 前	45	2	○		
○		物理療法Ⅱ (電気)	電気・水治療法について、機器等の物理的特性、生体に及ぼす生理学的作用、効果と適応、手技、リスク管理を行う能力を育成する。	2 後	45	2	○		
○		義肢学	義肢の分類と名称、適合判定、断端管理、義肢の製作、装着使用訓練、支給サービスに関して理解させる。	2 後	30	1	○		
○		装具学	装具の分類と名称、採寸・採型、適合判定、装着使用訓練、支給サービスに関して理解させる。	3 前	30	1	○		
○		日常生活活動Ⅰ (基礎)	基本的日常生活動作、応用的日常生活動作の構成を理解させる。 日常生活動作の量的評価項目を理解させる。 起居移動動作における基本的介護技術を育成する。	1 後	30	1	○		△
○		日常生活活動Ⅱ (応用)	日常生活動作の量的・質的評価項目を理解させ、模擬患者に対して実施する能力を育成する。 近隣の介護施設へ赴き、実際に現場で行われている生活介護に参加・見学する実習を行い、生活支援の重要性と方法を実践の中から育成する。	2 前	30	1	○		
○		理学療法治療学Ⅰ (整形)	基本的整形外科疾患の評価、リスク管理について学習させ、模擬患者に対して理学療法プログラムを立案する能力を育成する。	3 通	90	3	○		
○		理学療法治療学Ⅱ (神経)	基本的神経内科疾患の評価、リスク管理について学習させ、模擬患者に対して理学療法プログラムを立案する能力を育成する。	3 通	90	3	○		

○		理学療法治療学Ⅲ（小児）	基本的小児科疾患の評価、リスク管理について学習させ、模擬患者に対して理学療法プログラムを立案する能力を育成する。 近隣の保育施設へ赴き、幼児期の発達段階を実際に見学し、理解を深めさせる。	3前	30	1	○		
○		理学療法治療学Ⅳ（内科）	呼吸疾患の評価、リスク管理について学習させ、模擬患者に対して理学療法プログラムを立案する能力を育成する。	3前	30	1	○		
○		理学療法治療計画法	本授業では、各種疾患に対する測定・評価とそれに基づく理学療法計画について模範学習を行う。指導教員の助言のもと、臨床ではどのように捉え、実践しているのかを学び、問題解決思考能力を育成する。	3後	30	1	○		
○		福祉用具論	工学的な視点を通じて、福祉用具や日常生活機器と人間および環境との関係や考え方を理解させ、理学療法士・作業療法士として知つておくべき福祉機器やテクニカルエイドなどの情報を理解させる。	2前	30	1	○		
○		生活環境論	障害者が在宅生活を送るために必要な環境整備、利用可能な社会資源について理解させる。	3前	30	1	○		
○		地域理学療法論	地域の医療福祉分野における課題に対して、理学療法士の役割、社会資源、多職種との連携について理解させる。	3後	30	1	○		
○		地域福祉論	地域の課題を理解させ、社会福祉制度の範囲においてリハビリテーション医療従事者が果たす役割について理解させる。	3後	30	1	○		

○	臨床実習 I	臨床実習指導者の助言のもとに、基本的な理学療法評価技術を育成する。また、理学療法士の業務全般を見学して、役割を理解し、理学療法の概念・基礎医学の重要性を理解させる。	3 後	90	2			○
○	臨床実習 II	主に医療施設において、8週間×2回実施する。基本的理学療法の流れを理解し、指導者の助言のもと、基本的理学療法を実施する能力を育成する。	4 前	720	16			○
○	運動療法手技論	代謝、循環器・がん疾患の評価、リスク管理について学習させ、模擬患者に対して理学療法プログラムを立案する能力を育成する。	3 通	60	2	○		
○	レクリエーション技術論	レクリエーション活動の社会的意義を理解させる。レクリエーション活動の援助者としての役割について理解させる。レクリエーション計画の作成能力及び実践援助能力を育成する。	3 前	30	1	○		
○	臨床実習 III (医療外)	主に医療外施設において、4週間実施する。対象者を取り巻く環境・社会的背景等を理解させる。また、社会人基礎力、医療倫理観を育成する。	4 後	180	4			○
○	セミナー	国家試験共通・専門分野に対する国家試験対策を目的とする。低学力者に対する個別指導を徹底し、底上げを図る。	3 通	60	2	○		
合計		65 科目	3570 単位時間 (110 単位)					